

O1-019

除去食療法を経験している学童・思春期患児の食生活状況

宮城 由美子¹、横尾 美智代²、秋鹿 都子³、藤原 悠香¹¹福岡大学、²西九州大学、³島根大学

【目的】

食物アレルギーを有する学童期の子どもが除去食解除になることで、今まで食べられなかった食品が食べられること、また部分解除という状態で食べられる物や量の制限が継続することが、子どもの食生活の中でどのような意味をなすのか明らかにしていく必要がある。そこで食物アレルギーの子どもが成長発達していく中で、食物除去や食物経口負荷試験そして除去解除というプロセスの中で、子ども自身の病気体験や食生活に対する思いや療養行動を明らかにする事を目的とする。

【方法】

小児アレルギーエデュケーターが従事し協力が得られた医療機関で除去食・解除を経験した学童（高学年）・思春期児童に、除去食に伴う生活への影響などについてインタビューガイドを用いて半構成的面接を実施した。保護者及び本人の同意を得て録音した内容から逐語録を作成し、相違点や共通性を判断しカテゴリーを形成した。

【倫理的配慮】

所属大学の研究倫理委員会の承認を得るとともに、研究の目的について対象者及び保護者に書面にて同意を得た。

【結果】

対象者 20 (12.5 ± 2.36 歳) 名で、男児 11 名、女児 9 名、エビ・ペン所有が 14 名うち 3 名に使用経験があった。食物アレルギーの発症はほとんどが 0 歳であり、現在の除去食品は平均 3.4 (7 ~ 1) 品目で、除去解除できた子どもは 16 名、除去解除食品は平均で 1.8 (1 ~ 3) 品目であった。除去食解除年齢は 9.95 ± 2.72 歳であった。食物負荷試験実施頻度は、1 ~ 4 回/年が最も多かった。食生活に関連した日常生活において「食物除去解除になったの思い」「食生活に関連する友人関係」「給食・学校行事における状況と思い」「食物除去食により食べられないことに対する思い」「食物アレルギーに対するセルフケア」の 5 つのカテゴリーが生成された。食物除去解除によってうれしいなどの気持ちがみられ、飲食に関連した友人関係を保つための行動をとる一方で、友人関係や学校行事を我慢していることがみられた。中でも学校給食や飲食が関係する行事は、友達からの言動などにより不満を抱いていた。食物除去は幼少期から行っていることで特別なことではないが、我慢や寂しさもあり食に対する楽しさなども見いだせていなかった。誤食防止のため自ら食品表示を確認する行動を小学生低学年頃より始め、食物負荷試験に対しても前向きにとらえるが、負担に感じていることもみられた。

O1-020

乳幼児期の湿疹と食物アレルギーの関連
名古屋市乳幼児健康審査で施行されたアレルギー疾患に関する質問紙調査の縦断解析より杉浦 至郎¹、平光 良充²、二村 昌樹³、神岡 直美⁴、山口 知香枝⁵、榎村 春江⁶、近藤 康人⁷、伊藤 浩明¹¹あいち小児保健医療総合センター、²名古屋市衛生研究所 疫学情報部、³国立病院機構名古屋医療センター 小児科、⁴名古屋市立大学医学部付属西部医療センター 小児科、⁵名古屋市立大学大学院看護学研究科・看護学部、⁶名古屋学芸大学 管理栄養学部兼大学院栄養科学研究科、⁷藤田医科大学ばなね病院 小児科

【目的】

名古屋市の乳幼児健康診査（健診）で行われたアレルギー疾患に関する自記式質問紙調査結果を連結、縦断解析を行い、1 歳 6 か月健診時の即時型食物アレルギー（FA）と湿疹の関連を明らかにする。

【対象と方法】

2016 年度から 2019 年度に名古屋市の 3 か月健診を受診し、その後同市の 1 歳 6 か月健診を受診した児の調査票を deterministic linkage により連結した。1 歳 6 か月健診時「母乳やミルクまたは他の食べ物を食べたか飲んだりしたあとに、急に肌が赤くなったり、はれたりしたことがありますか？」の質問に「はい」と回答し、かつ、医師により FA の診断を受けたことがある児を「即時型 FA」と判断した。3 か月健診では「生まれてから今までに、湿疹ができたことがありますか？」1 歳 6 か月健診では「最近 12 か月の間に、治ったりまた出たりする湿疹ができたことがありますか？」という質問で湿疹の有無を調査し、それぞれ痒そうな様子の有無に関しても調査した。

【結果】

質問紙の連結が可能であった有効回答は合計 49087 名分であり、そのうち 9% が 1 歳 6 か月健診時に即時型 FA と判断された。3 か月健診で湿疹ありと回答したのは 70% (34394 / 49087) で、そのうち 12% が即時型 FA と判断された。3 か月健診、1 歳 6 か月健診共に湿疹無しの児の 2% (213 / 11245)、3 か月健診 - 湿疹有り、1 歳 6 か月健診 - 湿疹無しの 5% (856 / 17636)、3 か月健診 - 湿疹無し、1 歳 6 か月健診 - 湿疹有りの 9% (306 / 3448)、3 か月健診、1 歳 6 か月健診共に湿疹有りの 19% (3107 / 16758) が即時型 FA と判断された。また、3 か月健診で「痒そうな様子の湿疹有り」と回答した児は 23% (10773 / 47253) で、そのうち 19% が即時型 FA と判断された。3 か月健診 - 痒そうな湿疹有り、1 歳 6 か月健診 - 湿疹無しの 8% (326 / 3996)、3 か月健診 - 痒そうな湿疹有り、1 歳 6 か月健診 - 湿疹有り (痒そうな様子無し) の 18% (178 / 974)、3 か月健診、1 歳 6 か月健診共に痒そうな湿疹有りの 26% (1493 / 5685) が即時型 FA と判断された。

【結論】

湿疹は食物アレルギーの発症リスクであるが早期寛解が得られればリスク低減が期待できる。乳幼児健診を適切な治療のきっかけとすることが期待される。